

## 事業事前評価表(開発調査)

作成日：2002年11月1日 担当部：農林水産開発調査部林業水産開発調査課

1. 件名： マラウイ国養殖開発マスタープラン調査

### 2. 我が国が援助することの必要性・妥当性

#### (1) 現状及び問題点

マラウイ国は、国土の約20%(約29,000km<sup>2</sup>)がマラウイ湖をはじめとする湖沼、河川等の自然水体により占められており、内陸国でありながら、国民が摂取する動物性タンパクの約70%、総タンパク摂取量の約40%を水産資源でまかなっていることから、水産業は国民の食生活に重要な役割を果たしている。また、マラウイ湖には少なくとも数百種を越える魚種が生息し、その多くがこの湖の固有種であることから、その生態系の保全の重要性は世界的にも認識されている。

しかしながら、近年漁獲量は減少傾向にあるといわれており、マラウイ湖をはじめとする湖の水産資源の枯渇、生物の生息環境の悪化が危惧されている。

このような状況から、湖からの漁獲増に代わる方策として養殖振興が考えられる。JICAは1996年からプロジェクト方式技術協力で養殖分野の協力を実施しており、技術面では多くの知見が得られている。本調査においてはこれらの知見を普及面でどう生かして行くかを検討する必要がある。

#### (2) 国家開発計画、地域開発計画、分野別計画等の計画と当該案件の整合性

マラウイ国政府は、水産業の重要性に鑑み、現在の国家開発計画において、水産資源管理や水産振興を重点分野と位置づけるとともに、国家水産・養殖政策や水産保全管理法を策定している。

### (3) 他国機関の関連事業と当該計画の整合性

これまでにFAO、WB、ICEIDA、GTZ、DANIDA等のドナーが貧困層を対象とした漁業開発や養殖振興、資源管理のプロジェクトを実施している。しかし、各プロジェクトの成果、教訓がその後のプロジェクトに生かされていないため、成果は上がっていない。本調査では、過去のプロジェクトの成果、教訓について整理する。

### (4) 我が国の当該国への基本的な援助方針との整合性

当該国の援助重点分野として掲げている「食糧増産・農業生産性の向上」、「持続的開発のための資源保全・環境保護」に合致するものである。

## 3. 事業の目的

全国の湖沼、河川等の水体及び内陸地域を対象として、養殖開発計画(マスタープラン)を策定し、小規模養殖、商業養殖など各ターゲットグループに対する養殖の普及を図る。

## 4. 事業の内容

### (1) 対象

- a. 調査対象：全ての湖、河川、ダム及び小水体に内陸地域を含めたマラウイ国全域
- b. 技術移転の対象：天然資源環境省水産局の調査参加メンバー(中央職員及び地方職員、普及員)、関係省庁、本調査に関係するNGO・地域住民

### (2) アウトプット

- a. 計画策定：養殖開発計画(マスタープラン)の策定
- b. 技術移転：各地域、各ターゲットグループごとの養殖手法、先方政府実施体制づくり

(3) インプット：以下の投入による調査および技術移転の実施

a. コンサルタント（分野/人数）

分野	人数
総括/水産開発	1
増養殖技術/漁業生産	1
水産経済/流通	1
農漁村社会/水産資源管理	1
行政組織体制	1
農業と養殖の複合システム	1
業務調整	1

b. その他

- ・ 研修員受入れ(養殖)2～3名
- ・ 調査に必要な資機材の購入

(4) 総事業費

調査に要す費用：約3億円

(5) 調査のスケジュール

2002年12月～2005年7月(32か月)

(6) 実施体制

- 協力相手国の実施機関名：天然資源環境省 水産局
- 協力相手国実施機関の責任者：天然資源環境省 事務次官  
Mr. George C. Mkondiwa

(1) 提案計画の活用目標

- M/Pの活用により、マラウイ国の養殖開発がM/Pのフレームの下に実施される。

(2) 活用による達成目標

- M/Pに基づき養殖が住民により実施され、マラウイ国全漁獲量に占める養殖による漁獲量の割合が増える。

6. 外部要因リスク

(1) 協力相手国内の事情

対象地域で干ばつ等の大規模な自然災害が発生した場合や経済危機や治安等の問題が起こった場合には、調査が延期される可能性がある。

7. 今後の評価計画

(1) 事業評価に用いる指標

a. 活用の進捗度

1. 策定された計画が、国家計画に反映され、国の方針として示されているか。
2. 住民によって養殖が持続的に行われているか。

b. 活用による達成目標の指標

1. マラウイ国全漁獲量に占める養殖による漁獲量の割合

(2) 上記(a)及び(b)を評価する方法及びタイミング

本格調査終了後の10年後の事後評価